

# eラーニングの将来ビジョンの発表について

先進学習基盤協議会 ビジョンタスクフォース 最終報告書

～ eラーニングが支える知識社会～

平成15年3月7日

先進学習基盤協議会事務局

## < 概 要 >

eラーニングの推進を行う先進学習基盤協議会は、2001年9月よりビジョンタスクフォース（委員長：清水康敬国立教育政策研究所 教育研究情報センター長）を設置し、2010年やそれ以降に向けたeラーニングの将来展望を検討してきた。本報告書では、「いつでも」「どこでも」「誰でも」学ぶ意欲のある人が学習でき、学ぶことを楽しめる将来の学びのスタイルについて具体的に示すとともに、それを実現するために「教育支援制度の充実」「教育現場の支援体制の整備と指導者育成」「研究開発基盤の整備」の3点を提言している。また、ビジョン報告書の発表と同時に、「eラーニング・サービスのためのアクセシビリティガイド」と「eラーニング・サービスのための個人情報保護ガイド」のパブリックコメント版の公表を行う。

## < 検討の背景 >

インターネットなどの情報技術を使った学習の仕組みが学校や大学、企業などで導入され、また、家庭でも気軽に勉強できる環境が整ってきている。そこで多様なサービスが展開され始めているが、「情報技術により新しい学習手法が開発される」、「抜本的に教育の仕組みが変わる」と言われながら、なかなか新しい教育像が見えてこないのが現状である。なかでも、技術や社会構造が大幅に変革すると考えられる今後の10年、20年を見据えた、知識社会における教育のあり方についての展望が求められている。eラーニングは、知識社会における社会の基盤となると考えられることからeラーニングという視点から将来を検討することとした。

## < ビジョンタスクフォース報告書の主な内容 >

本報告書では、将来の知識社会における学びのスタイルについて具体的に示すとともに、それを実現するために「教育支援制度の充実」「教育現場の支援体制の整備と指導者育成」「研究開発基盤の整備」の3点を提言している。

第一章で報告書の概要を整理した後、第二章では、10年後、20年後の学習環境を考える上で前提となる技術展望や社会展望を行っている。そして、第三章でeラーニングの特徴と可能性を整理している。第四章では初等中等教育、高等教育、企業内教育、生涯学習など各分野別における情報技術利用の可能性を検討し、さらに将来に向

けて、ユビキタス技術を使った学習の可能性に言及している。第五章では、課題と求められる対応策について整理している。

報告書のダウンロード : <http://www.alic.gr.jp>

#### < アクセシビリティガイドと個人情報保護ガイドへのパブリックコメントの募集 >

ビジョンタスクフォース報告書の中でもふれているが、障害者や高齢者にも広く学習機会を提供するために学習システムのアクセシビリティへの配慮も重要である。また、学習者の成績情報などの個人情報の保護も重要な課題である。

先進学習基盤協議会事務局では、ビジョン報告書と並行して「eラーニング・サービスのためのアクセシビリティガイド」と「eラーニング・サービスのための個人情報保護ガイド」の作成を行ってきた。こちらは平成15年3月7日から平成15年3月19日まで先進学習基盤協議会ホームページにてパブリックコメントを実施する。これらのガイドは、お寄せいただいたコメントを元に、平成15年3月下旬に最終版として発行する予定である。

パブリックコメント : <http://www.alic.gr.jp>

以上

#### < 連絡先 >

先進学習基盤協議会事務局（担当：平本、伊藤）

URL <http://www.alic.gr.jp>

E-MAIL アドレス [vision@alic.gr.jp](mailto:vision@alic.gr.jp)

#### 先進学習基盤協議会（会長 坂元 昂メディア教育開発センター所長）

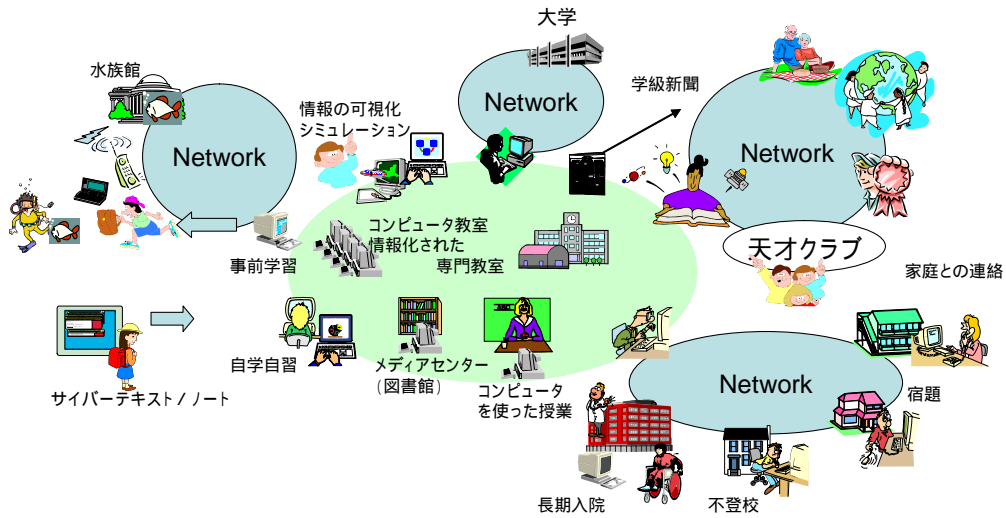
2000年4月に設立されたeラーニングを推進する産官学が協力して運営する協議会。eラーニングに関する研究開発活動を行うとともに普及を行っている。eラーニング白書の監修を行うとともにeラーニングに関する国際的な調整なども行っている。

ビジョン ・利用者や開発者のイメージ喚起や方向付けを行う	・ <u>ビジョン(今回整備)</u>
ガイドライン、ガイド ・開発や利用の効率化、高品質化を図るためノウハウを集約し提供	・教材開発ガイド(既整備) ・システム開発ガイド(既整備) ・ <u>アクセシビリティガイド(今回整備)</u> ・ <u>個人情報保護ガイド(今回整備)</u>
プラットフォーム開発 ・将来の社会インフラや必要ツールのプロトタイプなどを開発	・教材作成ツール(既整備) ・教育用素材検索システム(既整備) ・モデル学習システム(既整備) ・テストベツト(既整備)
研究開発 ・5年以上先を見越した技術や利用法を研究	・グループ学習(開発中)
標準化 ・教材などの交換を容易にするための国際標準を策定	・ISO(国際標準化中)
普及 ・広く一般への意識付けを行う	・eラーニング白書(既整備) ・eラーニング・フォーラム(既整備)

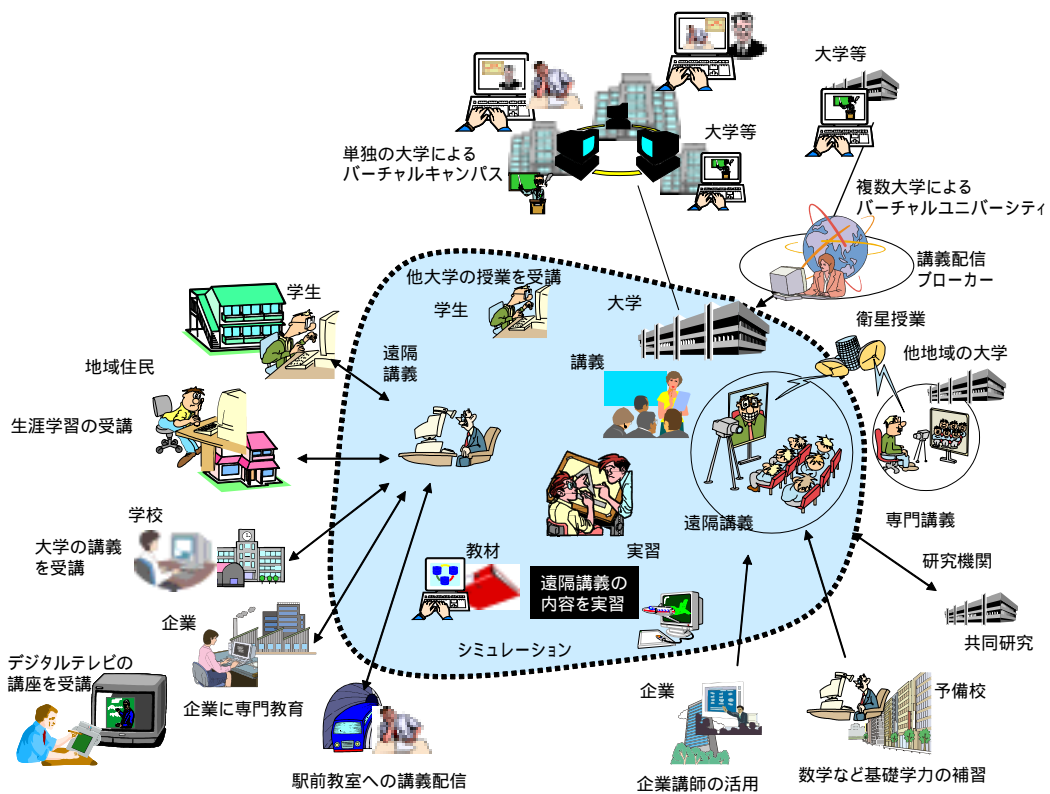
先進学習基盤協議会関連成果物（一部外部組織の開発物を含む）

(参考資料)

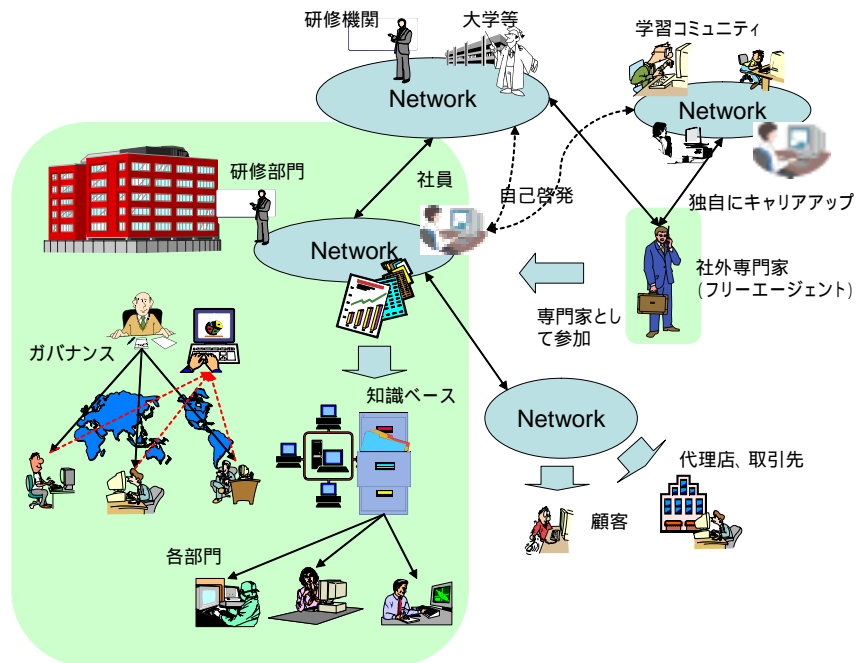
## 初等中等教育におけるイメージ



## 高等教育のイメージ



## 企業内教育のイメージ



## ユビキタス・ラーニングのイメージ

